

3大学シンポジウム「地域発DX～人材とDXで山口から新たな価値の創造を～」に本学の3学科の学生が参加しました

7月15日、山口大学、山口県立大学、山口学芸大学の3大学が主催するシンポジウムがKDDI維新ホールで開催されました。

山口大学の松野浩副学長による「地域活性化人材育成事業～SPARC」の紹介に続き、「大学によるDXのリカレント教育」、「課題解決型学習(PBL)を通じた大学と地域との連携」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

「大学によるDXのリカレント教育」のパネルディスカッションでは、山口大学DX人材育成推進室の湯浅修一副室長がモデレーターを務め、山口大学が開講しているリカレント教育プログラムを受講した3名の方々が、**学び直し**をすることの動機や意義などについて語りました。

「課題解決型学習(PBL)を通じた大学と地域との連携」のパネルディスカッションでは、本学の吉村副学長がモデレーターを務め、今年度本学が実施しているPBLの相手企業3社の担当者がパネラーとして参加しました。

パネラーの方々からは、学生に期待していることとして、次のような意見があげられました。

- ・「実践的な経験を通じて、学んだ知識を現実に適用する力を身に付けること」
- ・「地域社会の課題解決に参加することで、社会貢献の意義を高めること」
- ・「コミュニケーションスキルを向上させること」
- ・「自分たちの考えがどのように伝わりどのような成果につながるかを体験すること」

今年度入学した国際文化学部3学科の1年生が、2年後に実施するPBLを見据えて、今回のパネルディスカッションを聴講しました。企業の担当者からの話を直接聞くことを通じて、PBLの地域社会における意義や役割、また、PBLを実施するに当たっての心構えなどへの理解を深めました。



SPARC教育プログラムで新しい授業科目がスタートしました

2025年4月1日、国際文化学部では新設された情報社会学科の44人をはじめ、3学科で合計150人の新1年生を迎え、SPARC教育プログラムが本格的にスタートしました。

SPARC教育プログラムには18の必須科目があり（裏面「表1」参照）、その内10科目は他大学の学生と一緒に学ぶ「連携開設科目」です。前期には「データ科学と社会Ⅱ」を山口大学、山口学芸大学の学生と一緒にオンラインで、「知的財産入門」は対面で授業が行われました。

後期は本学から「地域文化論」を他大学にオンラインで配信します。



山口大学の陣内先生による対面で実施した「知的財産入門」



山口大学の教員がオンラインで実施した「データ科学と社会Ⅱ」

(表1) 本学のSPARC教育プログラム *3年終了時に認定書を発行

	科目区分	授業科目	他大学との共通状況	年次・開講期
DXによる地域課題解決(PBL)系列	◎	DXによる地域課題解決(PBL) I	3大学共通必修	3・前
	◎	DXによる地域課題解決(PBL) II	3大学共通必修	3・後
	○	DX概論	3大学共通必修	2・前
	●	地域学	3大学共通必修	2・前
STEAM人材育成系列		データ科学と社会 I	3大学共通必修	1・前
	○	データ科学と社会 II	3大学共通必修	1・前
		データ科学のための数学入門	必修	1・前
	○	データ科学のための基礎数学	3大学共通必修	1・後
		データサイエンス概論	必修	1・前
		データサイエンス演習	必修	1・前
	○	統計学概論	3大学共通必修	2・前
	○	人工知能概論	3大学共通必修	2・後
	○	知的財産入門	3大学共通必修	1・前
	●	地域文化論	山口大・県立大共通必須	1・後
	●	デザイン思考論	山口大・県立大共通必須	2・前
	●	コミュニティデザイン論	山口大・県立大共通必須	2・後
		やまぐち未来デザインプロジェクト I	必修	1・前
	やまぐち未来デザインプロジェクト II	必修	1・後	

■ …共同開設科目 ■ …連携開設科目
◎ 共同開設科目 ○山口大学提供連携開設科目 ●山口県立大学提供連携開設科目

本学提供の連携開設科目「地域学/国際文化実践論」は中間評価を実施し、受講した3大学の学生から他の科目と比較して良い点、改善点などについて様々な意見が寄せられました。

- ・他の大学の先生の話が聞けることが良いと思う一方で、他大学の学生とは交流することがないのでそこを改善していくとっと良くなると思う（山口大）。
- ・他大学の意見が自分の大学と方向性が違ったりして、新鮮でいい刺激を貰える（山口大）。
- ・毎授業違う先生が授業を行ってくださるので、いろいろな先生の研究内容や視点を知ることができ、普段関わることのない学部の他学年の方とも意見交換をできる点がとても良いと感じる（山口大）。
- ・自分の考えを持つことを意識されている点が、他の科目より良い点（山口大）。
- ・他大学の学生と間接的ではあるが関わることができたこと（学芸大）。
- ・良い点…他大学の人の意見を聞くことができる点。改善点…タイムラグや接続の悪さで話している内容が分かりにくいことが多々ある点（学芸大）。
- ・他大学の人の考えを知ることが出来る（学芸大）。
- ・他大学の学生の意見を聞くことができ、自分の大学とは話の切り口や分析の仕方が違うと言うことに気づくことができた（県立大）。
- ・良い点としては、受講人数が最も多いこともあり、毎回多様な意見を発表している点にあると考える。反対に改善点としては、他大学の学生と比較し、少し自分たちの意見に新鮮味がなく、焼き直しのような意見が多い点であるとする（県立大）。
- ・県立大にはない学科の人の意見を聞くことができる点が良い点だと思う。今回は県立大の先生がお話されていたが、他大学の先生のお話も聞いてみたいと思った（県立大）。
- ・他大学の人の意見を得ることで、自分にはなかった新しい考えなどを見つけることができた（県立大）。

「地域学」の後半では5つの企業、2つの市役所、2つの文化施設からゲストスピーカーを招いた授業を展開しました。

編集後記

2022年度からスタートしたSPARC事業が折り返し点を迎え、2025年度からは本格的にはカリキュラムがスタートしました。来年度には2年次で履修する6科目が加わり、合計10科目の連携開設科目が実施されることとなります。3大学の学生間で自主的な交流機会の創出について話し合いが始まっており、さらに相互理解や交流が進むことが期待されます。

SPARC事業では大学での授業のほか、高校生の先取り履修科目制度、リカレント教育の取組などを3大学のタスクフォースチームで検討を進めています。本学から提供する科目の教材は、今年度中に制作する予定です。SPARC事業の取組については、今後自動化に向けた準備をしておりますので、よろしくお願いたします